

## みはら歴史館の来館者数が4万5000人を突破



▲節目の来館者となった谷水さん家族

昨年11月に丁R三原駅前のペアシテイ三原西館1階に開館したみはら歴史館の来館者数が9月30日、4万5000人を突破しました。

節目の来館者となったのは、本町在住の谷水大輔さん家族。天満市長から記念品を受け取った谷水さんは「これをきっかけに子どもたちが三原の歴史を学び、三原のことを好きになってもらいたい」と話しました。

みはら歴史館は、瀬戸内三原築城450年事業の1つとして整備。三原城や戦国屈指の知将・小早川隆景などを紹介する資料を展示しているほか、期間限定でさまざまなテーマの企画展を開催しています。当初は今月末で閉館する予定でしたが、来館者が多いことなどの理由から来年3月まで期間を延

長します。  
開館時間は9時～17時。入館料は無料。年末年始は休館です。

●ミニ企画展「武具展」  
とき 5日(日)まで  
内容 小早川家伝来のかぶとや大袖、市ゆかりの刀剣の展示  
※4日(土)・5日(日)は20時まで開館時間を延長します。

### 文化課

☎0848・64・9234

## 本町の町並みを調査

市は本町に数多く残る古民家などの歴史的な建造物の状態を把握し、今後のまちづくりを生かすため、県立広島大学に町並みの調査を依頼しました。県立広島大学や兵庫県立大学などの



▲本町を歩いて回り調査を行う研究チーム

教授や学生ら14人で構成する研究チームが、先月10日から12日までの3日間にわたって調査を実施。本町を歩いて

回り、約260件の古民家や石垣、井戸などの歴史的な建造物について測量や写真撮影などを行いました。最終日には報告会を行い、歴史的な建造物が密集している地域があることや町の北側に大規模な屋敷が多いことなどの結果を住民や関係者らに報告しました。

調査に参加した学生は「間口の寸法に特徴があり興味深かった」「地域の人から町の歴史について話を聞くことができて良かった」と感想を述べました。

研究チームは来年3月までに報告書をまとめる予定で、市は報告書を基に建造物を生かしたまちづくりについて検討していきます。

### 文化課

☎0848・64・9234

## 市の事業を点検 事業レビューを実施

市は先月14・15日、市が行う事業の必要性や進め方について外部の視点で点検する事業レビューを実施しました。

大学教授などの評価者が「防犯」情報通信技術「産学官連携」「障害者福祉」「消費者行政」「国際化」の6テーマ8事業について市の担当者から説明を



▲評価者や市民判定者が事業について点検しました

受け、質問や議論をしながら点検しました。

点検作業には、市民判定者も参加。無作為に抽出された市民やこれまでに判定者を経験した人の中から応募のあった16人が、担当者や評価者の議論を聞いて事業を評価しました。

評価者や市民判定者からはさまざまな指摘や提案があり、防犯灯維持管理事業については「一括LED化を進めるべき」などの提案がありました。

レビューを終えた市民判定者からは「市民が意見を言える良い機会だった」、「来年も参加したい」などの感想が聞かれました。

市は今回の事業レビューの結果を参考に、今後の事業の見直しを行なっていきます。

### 経営企画課

☎0848・67・6280